

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2016/04/01

月末の日米金融政策発表が焦点に

通貨ペア	基調		ページ数
<u>ドル/円</u>	➡	レンジ継続の公算 予想レンジ: 110.000~ 115.000円	2 - 3
<u>カナダ/円</u>	➡	原油相場の思惑に注意 予想レンジ: 82.000~89.000円	4 - 5

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



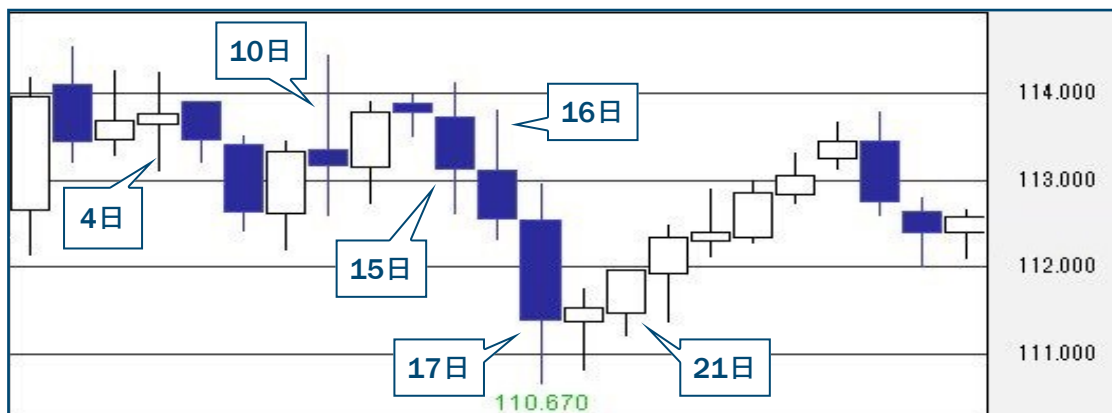
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2016Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

ドル/円 3月の推移

USD/JPY

3月のドル/円相場は110.670～114.551円のレンジで推移。月間の終値ベースではほぼ横ばいとなった。上旬は、何度か115円台の回復を試したが戻り売りに阻まれた。その後、日銀が追加緩和を見送り、米連邦公開市場委員会(FOMC)が追加利上げを見送ると、110.670円まで下落して約1年5カ月ぶりに安値を更新する場面もあった。中旬以降は、本邦勢による海外投資資金の還流(リパトリ)が一巡する中、欧米勢のイースター休暇に向けたポジション調整的なドル買いが入り値を戻したが114円台にも届かず失速。終盤には、イエレン米連邦準備制度理事会(FRB)議長の講演を受けて112円前後まで押し戻されるなど、月間を通して方向感が定まらなかった。



四本値

OPEN	112.669
HIGH	114.551
LOW	110.670
CLOSE	112.600

4日	米2月雇用統計は失業率が予想通りの4.9%、非農業部門雇用者数は前月比24.2万人増と予想(19.5万人増)を上回った。ただ、2月平均時給が前月比-0.1%と予想(+0.2%)に反して低下した。ドル/円は雇用者数の増加幅拡大に反応して発表直後に114.20円台まで上昇したが、時給の低下を確認すると113.10円台に反落するなど1円以上の値幅で乱高下した。
10日	欧州中銀(ECB)が、利下げと量的緩和の拡大を同時に行う包括的な追加緩和を発表すると欧州株の急騰につれて114.40円台まで上昇した。しかし、ドラギECB総裁が会見で追加利下げに否定的な発言を行うと株高・円安の流れが反転し、一時112.60円台まで反落した。
15日	一部に追加緩和への期待がくすぶる中、日銀金融政策決定会合が13時過ぎまで長引くと思惑的な円売りが入り114.10円台へ上昇。しかし、直後に日銀が金融政策の据え置きを発表すると113.20円台まで反落した。なお、黒田日銀総裁はその後の会見で、マイナス金利に対する批判的な見方について「日本で初めて導入したので、企業や家計からいろいろな意見が出ている事は認識している」とした上で「金利ははっきりと低下しており、今後、実体経済や物価にも波及する」との見解を示した。その後のNY市場では、米2月小売売上高が発表され、前月比-0.1%と予想(-0.2%)を上回ったものの、1月分が-0.4%に下方修正(発表時+0.2%)された。これを受けて112.60円台まで続落した。
16日	米FOMCは政策金利を0.25-0.50%に据え置くと発表。同時に声明で、「米経済は世界や金融の動きにも関わらず緩やかに拡大」としながらも「世界経済や金融状況がリスクをもたらし続ける」とした。また、経済・金利見通しでは、2016年の成長率予測を2.1-2.3%に引き下げ(従来2.3-2.5%)、同じく物価予測を1.0-1.6%(同1.2-1.7%)に下方修正した。さらに2016年末の政策金利予測を0.875%(0.25%の利上げ2回相当)とし、従来の1.375%から大きく引き下げた。なお、イエレンFRB議長はその後の会見で「海外経済への不安感が金融市場の動揺につながっている」と発言。ただ、米景気については「失業率が4.9%に下がるなどほぼ完全雇用の状態にあり、米経済は拡大を続けると見ている」など楽観的な見通しを示した。総じて早期の追加利上げに慎重な姿勢が示されたFOMCを受けてドル売りが強まった。
17日	前日の米FOMCを受けてドル安が進む中、欧州市場でドル売り・円買いが加速すると一時110.670円まで下値を切り下げた。しかしその直後に、日銀が円高牽制のために「レートチェック」を行ったとの噂が広がると111円台後半まで急反発するなど、介入への警戒感と相まって荒っぽい動きとなった。
21日	ウィリアムズ米サンフランシスコ連銀総裁(イエレンFRB議長に近いハト派と見られていた)が「4月あるいは6月の利上げの可能性ある」「世界要因なければ、より早期に利上げ実施へ」などと発言した事を受けてドルが上昇した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

USD/JPY

米2年債利回

OPEN	0.7757%
HIGH	0.9989%
LOW	0.7211%
CLOSE	0.7211%

米10年債利回

OPEN	1.7365%
HIGH	1.9966%
LOW	1.7003%
CLOSE	1.7687%

日経平均

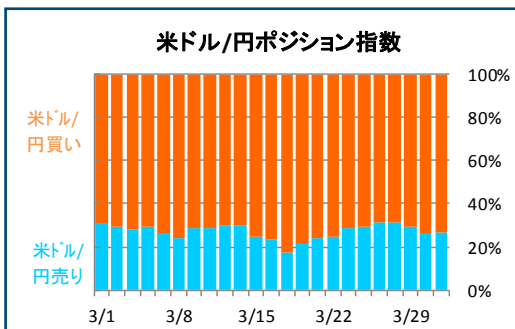
OPEN	16013.00
HIGH	17291.35
LOW	15857.37
CLOSE	16758.67

NYダウ平均

OPEN	16545.67
HIGH	17790.11
LOW	16545.67
CLOSE	17685.09

3月のポジション動向

4月の日・米注目イベント



- ・日銀短観(1日)
- ・3月米ISM製造業景況指数(1日)
- ・3月米雇用統計(1日)
- ・3月米ISM非製造業景況指数(5日)
- ・米FOMC議事録(6日)
- ・2月日本経常収支/貿易収支(8日)
- ・2月日本機械受注(11日)
- ・3月米小売売上高(13日)
- ・3月米消費者物価指数(14日)
- ・3月米鉱工業生産(15日)
- ・4月米シガン大消費者信頼感(15日)
- ・3月米住宅着工件数(19日)
- ・3月日本貿易収支(20日)
- ・3月米耐久財受注(26日)
- ・4月米消費者信頼感指数(26日)
- ・FOMC(26-27日)
- ・日銀金融政策決定会合(27-28日)
- ・1-3月期米GDP・速報値(28日)
- ・3月米個人消費支出(29日)

4月の見通し

月間指標カレンダー(外部リンク)

4月のドル/円相場も方向感を掴みにくい展開となりそうだ。月末近くに米連邦公開市場委員会(FOMC)と日銀金融政策決定会合が予定されており、それまでの間は決め手を欠く公算が大きい。1日の米3月雇用統計や13日の米3月小売売上高の結果にかかわらずFOMCが4月に利上げに動く可能性は極めて低いと言わざるを得ない。そのため、これらのイベントについては相場への影響を割り引いて考える必要があるだろう。焦点は次々回会合が行われる6月の利上げの有無に移ると見られ、4月FOMC声明を確認するまでは動きづらい。

一方、日銀は一部に追加緩和への期待がある。金融政策と同時に発表する展望レポートで物価と景気の見通しを下方修正する公算が大きく、それに沿って追加策を講じるとの見立てだ。ただ、市場の受けが良くないマイナス金利の深堀りを強引に進めても、市場はネガティブな反応(株安・円高)を示しかねない。また、量的緩和の面でも資産買入れ拡大の余地はそれほど大きくないと考えられており、数兆円程度の小幅な買入れ拡大では市場の失望を誘う可能性もある。日銀としては難しい舵取りを迫られる局面であり、市場としても直前まで追加緩和の有無を判断できそうにない。(神田)

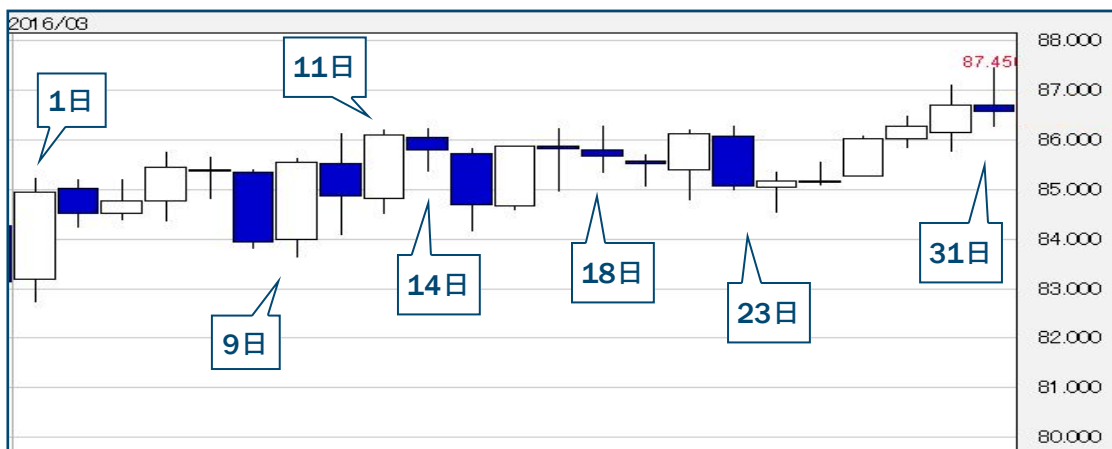
(予想レンジ:110,000~115,000円)

カナダ/円 3月の推移

CAD/JPY

3月のカナダ/円相場は82.759～87.456円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約4.1%の大幅上昇(カナダドル高・円安)となった。

原油産出国が増産見送りに踏み切るとの思惑を背景にNY原油先物が堅調な値動きを見せると、カナダ/円はじり高で推移。31日に87.456円まで上昇した。米早期利上げ観測の後退を受けてドル安が進み、ドル/カナダ相場が31日に昨年10月以来の水準に低下(=カナダドル高)となった事も、上昇を後押しした。



四本値

OPEN	83.195
HIGH	87.456
LOW	82.759
CLOSE	86.582

1日	加10-12月期国内総生産(GDP)が前期比年率+0.8%、12月GDPは前年比+0.5%と予想(±0.0%、+0.1%)を上回る伸びとなり、カナダ/円は上昇。ロシアのノバク・エネルギー相の「ロシアやサウジアラビアなど有力産油4カ国が合意した増産凍結について、既に15カ国以上が支持する意向を示している」との発言を受けてNY原油先物が上昇した事も追い風となり、85.244円まで一段高となった。
9日	BOCは事前予想通り、政策金利の据え置きを発表。声明文は「インフレのリスクは概ね均衡している」など、前回から大きくは変わっていなかった。その後EIA週間原油在庫が発表され、原油は在庫が積み増されたものの、ガソリンや暖房油の在庫が減少に転じた事から、NY原油先物が38ドル台を回復。カナダ/円は85.60円前後まで上昇した。
11日	加2月雇用統計で、失業率が7.3%、新規雇用者数は0.23万人減と予想(7.2%、1.00万人増)より弱い結果となり、カナダ/円は下押しも一時的。その後は欧米株価やNY原油先物の上昇を受けて86.220円前後まで反発した。
14日	現地時間13日にイランのザンギヤネ石油相が「同国の原油生産量が日量400万バレルに達しない限り、原油の増産凍結には参加しない」と発言した事を受け、NY原油先物が下落。カナダ/円は軟調に推移した。
18日	加2月消費者物価指数は前年比+1.4%、コア・前年比+1.9%といずれも予想を(+1.5%、+2.0%)を下回る伸びとなった。一方、加1月小売売上高は前月比が+2.1%、自動車を除いた前月比は+1.2%と予想(+0.6%、+0.4%)を大きく上回った。
23日	米EIAが発表した在庫統計において、原油在庫が大幅に増加し、過去最高を更新した事を受けてNY原油先物の下げが進むと、カナダ/円は85円ちょうど前後まで値を下げた。
31日	加2月GDPが前月比+0.6%と予想(+0.3%)を上回る伸びを示した事や、NY原油先物が一時39ドルを回復した事から、カナダ/円は昨年12月以来となる87.456円まで上昇。ただ、その後は原油相場が伸び悩んだ事から反落した。

加10年債利回り

OPEN	1.193%
HIGH	1.383%
LOW	1.163%
CLOSE	1.227%

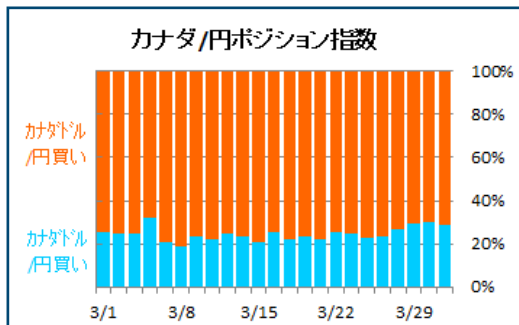
N Y 原油

OPEN	33.90
HIGH	41.90
LOW	33.37
CLOSE	38.34

NYダウ平均

OPEN	16545.67
HIGH	17790.11
LOW	16545.67
CLOSE	17685.09

3月のポジション動向



4月のカナダの注目イベント

- ・3月住宅着工件数(8日)
- ・3月加雇用統計(8日)
- ・加中銀政策金利発表(13日)
- ・3月加消費者物価指数(22日)
- ・2月加小売売上高(22日)
- ・2月加GDP(29日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

4月の見通し

4月のカナダ/円相場は、足元でBOCの追加利下げ観測が後退している事もあり、引き続き原油相場の動向が焦点となろう。カナダは原油が主力輸出品であり、原油価格の低迷はカナダ経済にとって悪材料である。先月は産油国による増産凍結協議が実施されるとの観測から原油高が進んだが、今月は複数予定(8日・・・中南米産油国が会合実施の可能性、17日・・・石油輸出国機構(OPEC)内外の産油国が参加)されている会合に注目したい。特に17日の会合での合意が期待される。しかし、ロシアが先月28日に原油輸出を増大している事が明らかとなった事や、イランが17日会合に出席の意向を示すも増産凍結協議には加わらない意向を示した事など、不透明感が根強い。したがって、会合が合意に至らない可能性は低くはなさそうだ。合意失敗となれば原油相場が反落する可能性が高く、カナダ/円相場にも下落圧力が掛かりそうだ。

なお、今月の加中銀政策金利発表について、加経済の持ち直しや原油相場の堅調推移により、現在の金融政策を維持する可能性が高いと見る。声明も前回に続いて大きな変更があるとは考えにくい。したがって、カナダ/円相場を動かす材料にはなりにくいだろう。(川畑)

(予想レンジ: 82.000~89.000円)